

2021年4月8日

Okta Japan 株式会社

報道関係者各位

(米国報道発表資料抄訳：2021年4月7日現地時間)

【抄訳】 Okta、Customer Identity 向けに

事前連携済みアプリ群「Okta Integration Network」を拡充

新しいインテグレーションカタログとして、セキュリティ、カスタマーエクスペリエンス、アプリケーション開発、データプライバシーとコンプライアンスなど、DXの課題に対応する機能を提供

アイデンティティ管理のサービスプロバイダーである Okta, Inc.（本社：米国・サンフランシスコ 以下 Okta）は、Okta 主催イベント「[Oktane21](#)」にて、詐欺とリスク対策、顧客データのオーケストレーション、データプライバシーとコンプライアンス、ソフトウェア開発ライフサイクルといった 4 つの主要な Customer Identity 分野における事前連携済みアプリ群「Okta Integration Network」の拡充を発表しました。本日から利用できるこれらの新しいインテグレーションは、アイデンティティ機能を活用して、トランザクションの保護からデジタルオンボーディングにいたるまでの非常に複雑なデジタルトランスフォーメーション（DX）の課題解決をサポートします。

COVID-19 は、あらゆる業界の企業のデジタル化を加速させました。フィジカルとデジタルのギャップを埋めるエンドツーエンドの体験は、経済において最も重要な競争力となっています。カスタマーエクスペリエンス、セキュリティ、データとプライバシー、アプリケーション開発が最優先課題となっているため、組織はさまざまなツールの使い方を学ばなければなりません。使い勝手の良さとセキュリティを継ぎ目なく最適にするために、これらのシステムやツールとチームが連携する必要があります。今日、企業は、快適なエクスペリエンスを顧客に提供するために高度に統合された拡張可能なアイデンティティプラットフォームを必要としています。

Okta の最高製品責任者（CPO）であるディア・ジョリー（Diya Jolly）は次のように述べています。

「アイデンティティは、デジタルエクスペリエンス・エコシステムにおいて、特にインテグレーションの観点から明確かつユニークな役割を担っています。リスクシグナルをアクセス決定に結びつけることで、ユーザーエクスペリエンスを損ねることなく、デジタルの世界で一般的となっているセキュリティや詐欺のリスクを防ぐことができます。同時に、Okta Workflows がユーザーエクスペリエンスの向上に果たす役割を拡大するチャンスがあると考えています。Okta Workflows はリアルタイムのデータオーケストレーションツールとして機能し、カスタマージャーニーの技術スタック全体でアイデンティティを中心としたプロセスを自動化することができます。リスクのシグナリングとカスタマー

ジャーニーを網羅する当社のベストオブブリードのアプローチと、深いインテグレーションカタログを組み合わせることで、Okta のお客様が堅牢で安全なデジタルエクスペリエンスを構築するためのあらゆる機会を提供します。」

Okta Workflows によるカスタマーエクスペリエンス全体の自動化

Customer Identity 向け Okta Workflows が利用可能になり、Okta Integration Network は、ノーコードでの自動化のニーズをサポートする事前インテグレーションを拡充しました。Hubspot、Mixpanel、SendGrid、その他のコネクタが利用可能になり、複雑な DX のユースケースに対応できるようになりました。Okta Integration Network 内の新しい Okta Workflows コネクタにより、利用企業は、登録、分析、プライバシーと同意、顧客関係管理など、幅広い顧客体験のユースケースをサポートできます。また、Customer Identity 向け Okta Workflows を使用することで、カスタマーエクスペリエンス技術スタックにまたがるコアテクノロジーセット全体でアイデンティティをシームレスに統合し、活用できます。新しいコネクタは、他の多くのコネクタとともに、更新された Okta のインテグレーションカタログで検索できます。

Mixpanel の最高経営責任者である Amir Movafaghi 氏は次のように述べています。「Customer Identity 向け Okta Integration Network に参画することで、お客様が登録やログインに関する Okta のデータを Mixpanel 内で簡単に視覚化できるようになることを大変嬉しく思います。当社は、カスタマージャーニーを理解するための製品分析は非常に重要だと感じており、今回の統合によりそれがさらに可能になります。」

信頼を前提としたリスクエコシステムの構築

今日のデジタル経済での企業は、予期しない攻撃を防御しながら、顧客の信頼を築く必要があります。新しい Okta Risk Ecosystem API を使用すると、お客様はアイデンティティを活用して、さまざまな外部の行動とトランザクションのリスクシグナルを取り込み、一元化して、正当なユーザーを識別し、デジタルコマースエクスペリエンスを保護できます。Signal Sciences（現在は Fastly の一部）、HUMAN、F5 Networks、PerimeterX などのポット検出と Web アプリケーションファイアウォールプロバイダーとの新しいインテグレーションにより、新しい Okta Risk Ecosystem API を活用して、詐欺関連のリスクシグナルを特定のユーザーに関連付けます。これらの新しいインテグレーションは、リスクと詐欺対策における Okta の既存のパートナーシップを強化し、顧客とセキュリティプロファイルの全体像を 360 度で把握することを促進します。

Fastly のチーフプロダクトアーキテクトである Sean Leach 氏は次のように述べています。「Fastly は、世界最大のブランドに、ポットやアカウントの乗っ取りに対する可視性と保護を提供しています。Okta と緊密に連携してリスクシグナルを共有し、相互のお客様に不正の全体像を提供できることを嬉しく思います。予期しないリスク

Press Release



からのシームレスな保護を提供しながらカスタマーエクスペリエンスを改善することは、効果的で安全なデジタルエクセラレーションとなります。私たちは共に攻撃を防ぎ、現代のチームが抱えるニーズを満たすことができます。」

MLB の最高情報セキュリティ責任者である Neil Boland 氏は次のように述べています。「MLB の使命は、ファンが野球のあらゆる側面とつながることを可能にし、オンラインや球場での体験の橋渡しすることです。Okta がファン向けエクスペリエンスのアイデンティティレイヤーとなることで、我々は非常に魅力的でシームレスなデジタルエクスペリエンスを提供しつつ、お客様のプライバシーとセキュリティを大規模で維持できます」

今回の新しいインテグレーションにより、組織は次のことが可能になります。

- カスタマージャーニーの認証・登録フローにおけるリスク評価と詐欺行為の防止
- 顧客データのダウストリーム（データフロー上の後続）システムやカスタマーマーケティングシステムへの誘導
- 顧客の同意設定がプライバシーシステムやマーケティングシステムにリアルタイムで伝達されることで、地域毎のプライバシー法の確実な遵守
- 迅速なプロトタイプの開発から DevOps の自動化まで、ソフトウェア開発ライフサイクル全体でのアイデンティティ統合のスピードアップ

提供開始日

新しいカタログとコネクターを含む Customer Identity 向けの Okta Integration Network は、本日から okta.com/integrations で利用可能です。また、Customer Identity 向けの Okta Workflows も本日から一般提供を開始しました。リスクシグナルの取り込みは本日よりアーリーアクセスで利用可能で、Okta のアダプティブ MFA（適応型多要素認証）を通じてアクセスできます。

Okta について

Okta は、あらゆる人のアイデンティティとアクセスを安全に管理するベンダーニュートラルなサービスプロバイダーです。Okta が提供するプラットフォーム「Okta Identity Cloud」により、クラウド、オンプレミスを問わず、適切な人に適切なテクノロジーを適切なタイミングで安全に利用できるようにします。7,000 以上のアプリケーションとの事前統合が完了している「Okta Integration Network」を活用して、あらゆる人や組織にシンプルかつ安全なアクセスを提供し、お客様の潜在能力を最大限発揮できるように支援します。JetBlue、Nordstrom、Siemens、Slack、T-Mobile、Takeda、Teach for America、Twilio を含む 10,000 以上のお客様が Okta を活用して、職場や顧客のアイデンティティを保護しています。